

全国

検数労連

780号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2

日港福会館 5 階

Tel 03(3733)5621

Fax 03(3733)5622

メール rouren@kensu.jp

ホームページ http://www.kensu.jp/

全国検数労働組合連合
書記局

11月13日(水) 10:00~11:00 第2回検数労連24冬季一時金交渉
24冬季一時金スト権、全ての項目において95%以上の賛成票を獲得!
両協会はこの結果を真摯に受け止め、要求に沿った回答構築を!

【24冬季一時金スト権 集約結果】

地区名	項目	賛成	反対	白紙	棄権	合計
全 国	1. 冬季一時金	958	5	8	10	981
	2. 諸要求	962	1	8	10	981
	3. 港湾の軍事利用	934	24	12	11	981

【スト権集約結果】

24冬季一時金スト権について、11月1日(金)から12日(火)までを投票期間として中央集約した結果、左記のとおり各項目において95%以上の賛成票を獲得しました。

この結果は、昨今の諸物価高騰や慢性的な人員不足のなかで働く組合員の24冬季一時金に対する大きな期待の表れであると認識していることから、両協会に対し

て、組合員の思いを受け入れるよう交渉で追求していきます。

【第2回交渉】

11月13日(水) 第2回検数労連24冬季一時金港交渉を開催し、組合は両協会に対し、24冬季一時金スト権の集約結果の公表と、両協会の基礎数字(対象人員・本給・平均年齢・平均勤続・35才標準者)の披歴を求め、交渉を行いました。

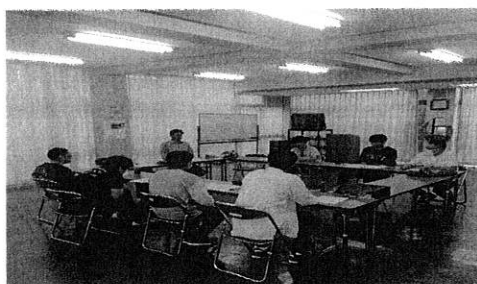
【組合主張】

スト権集約にあたり、現場で働く組合員から今冬季一時金について様々な声が上がっている。昨今の諸物価高騰や慢性的な人員不足のなかで、組合員の一時金にかけられる期待や思いは大きなものになっている。

両協会においては、職場の期待を裏切ることなく要求に沿った一時金回答の構築を求める。特に一時金回答における地域間格差は、組合員のモチベーションを下げるだけでなく、離職にもつながる恐れもあることから、地域間格差の無い回答構築を強く求める。

【両協会】

前回の交渉で組合からの要求書を持ち帰り、しかるべき時期に有額回答が提示できるよう、回答構築に向けて収支状況等の情報を集約し検討を重ねているところである。



東北検数労連(小名浜) 秋闘オルグを開催

10月19日(土) 秋闘の一環として東北検数労連(小名浜)で、中央オルグを開催し、中央本部から石橋委員長と石渡書記次長が参加しました。

東北検数労連からオルグの感想が届きましたので紹介します。

【小名浜オルグ】

労働組合の在り方について、今回初めてオルグに参加してみて労働組合の在り方について改めて考えさせられました。特に印象に残ったのが組合は例えるなら『街の消防署』であり『人体でいうところの神経』であるということです。消防署の役割として火事が起これば真っ先に現場へ駆けつけ、また火事を未然に防ぐために見回りをします。

これは職場に問題が起きようとしていることに対して見回りや点検をすることに似ています。また『人体の神経』という例えは、労働組合の末端まで神経を張り巡らせ、問題を会社に伝え協議し、解決に導く役割があるということです。また、組合役員と組合員の信頼関係が無ければ組合は機能しないため、普段からのコミュニケーションが必要であると感じました。

石炭火力発電廃止について、小名浜港では多くの火力発電所が立地しており、電力会社が燃料の供給点となっています。エネルギー転換の一つとして石炭火力発電所の廃止は否定しませんが、『港湾何役事業の廃止』に繋がり雇用と職域を奪う重大な問題をばらんでいます。海外ではCO2を極限まで減らす技術も考えられており、国内でもGGCCと呼ばれる環境にやさしく発電効率を上げた方法も採用されていますが、今後、石炭火力発電の縮小は免れない状況であると考えられます。そのため、これからは自らの雇用と職域拡大を図るため、自分たちでも情報を収集し、会社に対して新規事業を提案するなど新しい事業に結びつけるよう取り組んで行きたいと思っています。

次回交渉 11月19日(火) 14:00~ 第3回24冬季一時金交渉

両協会に対し、収支状況、一時金回答構築に向けた考え方などを求め交渉をおこなっていきます。